

ソフトウェア品質に関わる全ての方々に役立つシンポジウムです!

# ソフトウェア品質シンポジウム2015 (SQiP2015)

## JUSE-Software Quality Symposium



**早期割引  
もあります。  
8/18まで**

**日程** 2015年9月16日(水)~18日(金)  
※併設チュートリアル(半日集中講座)9月16日(水)開催

**会場** 東洋大学・白山キャンパス(東京・文京区)

**主催** 一般財団法人 日本科学技術連盟

最新情報は、  
インターネットでご覧ください!!

SQiP2015

検索

### 基調講演

[9/17]10:40~11:50

## 変わりつつあるシステム品質~世界で起きている開発方法論の革新~

白坂 成功 氏(慶應義塾大学)

●聴きどころ

これまでのシステム開発は、大規模さやクリティカルさに対応して品質をあげることを目指してきました。しかし、現在現れ始めてきているシステムでは、単に大規模になるだけでなく、色々なシステムが相互に関連し、連携するようになってきています。このようなシステム開発では、これまでのやり方で高い品質を実現することが難しくなってきています。本講演では、新たなシステムデザインの考え方を紹介するとともに、これからのシステム開発に必要な、新しいシステム品質へのアプローチを紹介します。

●講師紹介

**【略歴】**三菱電機にて15年間、宇宙開発に従事。宇宙ステーション補給機「こうのとり」や日本版GPS「みちびき」などの開発に参画。「こうのとり」の開発では初期設計から運用までを担当する。現在は、技術-社会融合システムの開発方法論、イノベーション創出方法論の研究に取り組む。



### 特別講演

[9/18]15:25~16:35

## JR東海の鉄道事業運営を支える情報システムの取り組み

石川 勝隆 氏(東海旅客鉄道株)

●聴きどころ

当社は、「安全安定輸送の確保」、「お客様の利便性向上」、及び「業務効率化」の3方向から積極的にシステム化に取り組んできました。特に当社では、安全の確保は輸送業務の最大の使命との認識のもとに日々の業務を遂行しており、情報システムも同様に、システムの安定稼働対策には最全力を入れて取り組んでいます。現在、150強の情報システムが稼働し、当社の鉄道事業運営を支えています。全社を統括する情報システム部門の取り組み、鉄道の安全安定輸送を支える情報システムの高品質にどう取り組んでいるのか、鉄道会社における情報システム技術者の人材育成にどう取り組んでいるのかを紹介します。

●講師紹介

**【略歴】**1989年4月JR東海入社。駅の収入金を管理するシステムの構築、社内会計システムの構築、社内イントラネットの構築に従事。2000年11月よりエクスプレス予約システムの開発に従事。システム開発プロジェクトのPMとして、2001年9月のサービス開始、2006年7月の山陽新幹線区間のサービス開始、2008年3月のEX-ICサービス開始、2009年8月のEX-ICの山陽区間のサービス開始に伴うシステム開発を手掛けてきた。2011年7月より全社の情報システムの統括管理、グループ会社も含めた情報システムセキュリティの統括管理、情報システム部門の人材育成を担当。2015年7月よりジェイアール東海情報システム株式会社 品質管理部 部長。



### 特別企画 併設チュートリアル [開催日:9月16日(水)]

(敬称略)

8つのテーマから選択できる半日集中講座です。

- |   |   |
|---|---|
| <p><b>1</b> テストプロセスのマネジメントをイロハから<br/>大西 建児(ガイオテクノロジー株)</p> <p><b>2</b> テストマネジメントが知るべきテスト自動化の勘所<br/>松本 晋祐(株式会社ベリサーブ)/井芹 洋輝(株式会社豆蔵)/朱峰 錦司(株式会社NTTデータ)</p> <p><b>3</b> メトリクスと統計手法を活用した効果的なレビュー方法<br/>小池 利和(ヤマハ株)</p> <p><b>4</b> ソフトウェアプロセス改善の基本と実践<br/>小笠原 秀人(株式会社)</p> | <p><b>5</b> D-Case適用の考え方<br/>山本 修一郎(名古屋大学)</p> <p><b>6</b> 入門USDM ~開発現場で使う仕様化技術~<br/>古畑 慶次(株式会社デンソー技研センター)</p> <p><b>7</b> チケット駆動開発入門 ~基礎から応用まで~<br/>小川 明彦(XPJUG関西)/阪井 誠(株式会社SRA 関西事業部)</p> <p><b>8</b> 『わかりやすい』アジャイル導入ポイント<br/>前川 直也(株式会社新システムズ)/西河 誠(AVCマルチメディアソフト株)<br/>細谷 泰夫(三菱電機株)</p> |
|---|---|

## SQiPシンポジウムの歩き方

SQiPシンポジウムのコンセプトは  
「**聴く、考える、話す**」です。

- ① 聴く** 講演、特別セッションで新しい情報や基本を知ろう
- ② 考える** テーマ別企画セッション、一般発表(経験論文、経験発表)による実践事例や研究成果の発表で他社の工夫、悩みを知ろう
- ③ 話す** SIG(Special Interest Group)、クロージングパネルディスカッションなど「参画型プログラム」を通じて抱えている問題を解決しよう

ソフトウェア開発に待ち受ける様々な難関を一つひとつ乗り越えて、更にもう一歩、先に進んで行きましょう!

# 併設チュートリアル (8つのテーマから選択できる半日集中講座) 【9月16日(水)13時~17時 会場:東洋大学・白山キャンパス6号館】

「併設チュートリアル」とは、シンポジウム・本会議の前日(9月16日)に開催される講座です。  
※お得な「併設チュートリアル + 基調講演(本会議1日目)」のセット割引8,640円(税込み)もご用意しています。

**必見!**  
**5,400円**(税込み)で  
**一流講師の講座に**  
**参加できます!**

## 基本の本質を学び、見つめ直す場をご提供します。

(敬称略、順不同)

### 併設チュートリアル 1

#### テストプロセスのマネジメントをイロハから

大西 建児(ガイオテクノロジー㈱エバンジェリスト/チーフコンサルタント)

開発現場でテストを効果的にマネジメントするために、一般的なテストプロセスを導入しようとなった時、腹落ちした理解抜きに適用することは難しいでしょう。本チュートリアルでは、一般的な概念として国際的なソフトウェアテストの資格であるISTQBのシラバスを主に参照します。演習ではドキュメントサンプルを使って受講者が実際に手を動かすことで理解を促し、実践が容易になることを目指します。



### 併設チュートリアル 2

#### テストマネジメントが知るべきテスト自動化の勘所

松木 晋祐(㈱ベリサーブ クラウド検証サービス開発部 副部長)  
井芹 洋輝(㈱豆蔵 コンサルタント)  
朱峰 錦司(㈱NTTデータ 技術開発本部 主任)

テストの自動化はすでに流行のフェーズを過ぎ、開発プロセス要求に明示される事例も出てきました。しかし、テストの自動化はその前提や進め方について適切な理解がないと、うまく成果を出せません。

本チュートリアルでは、「テスト自動化の用途や制約はなにか」「テスト自動化を支えるプロセスやスキルはなにか」「導入判断や評価はどうすればよいか」「テスト自動化の現状や今後の動きはどうなるのか」といった、成果を出すためにテストマネジメントに求められるテスト自動化の基礎知識や情報について、有識者が広く解説いたします。



松木氏



井芹氏



朱峰氏

### 併設チュートリアル 3

#### マトリクスと統計手法を活用した効果的なレビュー方法

小池 利和(ヤマハ㈱ 品質保証部 DMI品質保証室 品質管理G 担当課長)

マトリクスを活用して、レビュープロセスの適切な評価、コントロール、改善に結びつけるための効果的な技法について解説します。講演者が執筆した近刊の『(仮題)ソフトウェアマトリクス統計解析入門』の内容からも抜粋してご紹介します。

- ・イントロダクション
- ・レビューの質と価値の定量化
- ・定量的レビュープロセス管理方法例
- ・レビューマトリクスの統計手法活用例



### 併設チュートリアル 4

#### ソフトウェアプロセス改善の基本と実践

小笠原 秀人(㈱東芝 インダストリアルICTソリューション社 IoTテクノロジーセンター 主査)

ソフトウェア開発やシステム開発の現状は多種多様化されてきています。

- ・アジャイルソフトウェア開発の広がり
  - ・オフショア開発のさらなる進展
  - ・RedmineやGitなどの開発環境の進化
  - ・既存のソフトウェアをベースにした派生開発
- などなど、いろいろなものが増えてきます。

これらの多種多様な開発の状況に対応するためには、先を見越して準備をしつつ、タイムリーに、より適切な開発プロセスを整備し、その開発プロセスを使いこなす必要があります。これを実現するには、ソフトウェアプロセス改善活動を継続的に絶え間なく続けることが必要です。

本チュートリアルでは、最初に、ソフトウェアプロセス改善の基本についてふりがえります。ここでは主に、SEPG(Software Engineering Process Group)とSQAG(Software Quality Assurance Group)の役割と活動に焦点を当てて説明し、具体的な実践方法などについて議論します。

次に、多種多様化している現状の開発に対して、いくつかの実践事例を紹介しうえて、どのようにことに気をつけながらプロセス改善活動を推進すればよいかを解説します。



### 併設チュートリアル 5

#### D-Case適用の考え方

山本 修一郎(名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授)

重要安全システムのディバグビリティ(高信頼性)や安全性を客観的な証拠に基づいて保証するための手法がD-Caseです。本チュートリアルでは、これまで名古屋大学で実践してきた研究・教育内容に基づいて実践的なD-Caseの適用知識を解説します。

D-Caseでは、自動車分野や航空宇宙分野のシステム開発で注目されている機能安全を保証するための安全性ケースを作成・レビューすることができます。この方法についても、具体的な組み込み分野のシステム事例に基づいてわかりやすく解説します。また、既存の安全分析手法との違いや組み合わせ方についても紹介します。さらに、演習課題に取り組んでいただくことにより、学習した知識を現場で活用できることを目指します。

- (1)システム障害事例 (2)機能安全とシステムの高信頼性 (3)欠陥分類 (4)安全分析手法 (5)安全性ケース (6)演習



### 併設チュートリアル 6

#### 入門USDM ~開発現場で使う仕様化技術~

古畑 慶次(㈱デンソー-技研センター 技術研修部 担当課長)

ソフトウェア開発のトラブルは、仕様モレや仕様の誤解が原因であることが多く、適切な要求仕様書の作成は、ソフトウェア開発だけでなく、ビジネスゴール達成にも大きな影響を与えます。こうした要求仕様書の作成に有効な手法として注目されているのがUSDMです。

本チュートリアルでは、開発における問題と要求仕様書の関係を整理し、要求工学の観点からUSDMの位置づけを明確にします。そして、仕様モレを排除できるUSDMのコンセプト、書き方のテクニックを現場での事例や簡単な演習を通して実感していただき、その効果と有効性について解説します。USDMの導入を検討されている方や初心者の方にも手応えを感じていただけるよう進めていきます。



### 併設チュートリアル 7

#### チケット駆動開発入門 ~基礎から応用まで~

小川 明彦(XPJUG関西)  
阪井 誠(㈱SRA 関西事業部)

RedmineやTracといったITS(課題管理システム)のチケットをタスク管理に利用するチケット駆動開発。今では多くのプロジェクトで利用されています。本チュートリアルでは、

- ・チケット駆動開発の概要
- ・ウォーターフォール開発におけるチケット駆動開発
- ・Redmineによるアジャイルなチケット駆動開発
- ・チケット駆動開発の運用事例

を講演者の経験を踏まえてご説明します。



阪井氏

### 併設チュートリアル 8

#### 「わかりやすい」アジャイル導入ポイント

前川 直也(㈱日新システムズ 事業戦略部 主査)  
西河 誠(AVCマルチメディアソフト㈱ 第5開発グループ アシスタントグループマネージャ)  
細谷 泰夫(三菱電機㈱ 通信機製作所 情報技術部)

近年、市場の変化への追従などの必要性から「アジャイル開発」が広がりを見せていますが、教科書通りの方法を実践するだけでは、本質をつかみ、現場で効果を出すのは難しいです。開発プロセスやしがらみ、部門間の壁により、うまくシフトチェンジできていないか、必要な導入ポイントが抜けているということが考えられます。

本チュートリアルでは、「なぜアジャイル開発をするのか?」を説明し、ワークショップを通じてアジャイル開発のメリットを体感していただき、最後にテストやドキュメンテーションなど現場に導入する際に疑問となるポイントについて解説します。



前川氏



西河氏



細谷氏

併設チュートリアルURL <http://www.juse.jp/sqip/symposium/timetable/tutorial/>



# 企画セッション (9月17日(木)・18日(金))

(敬称略)

## 1 《講演》ANAのプロセス改革 ～旅客サービスを支える大規模ミッションクリティカルシステムの刷新～

金子 肇(全日本空輸(株) 業務プロセス改革室 ITサービス推進部 国内旅客チームリーダー)

ANAでは、国内線旅客システムを世界で初めて「オープンシステム」にて刷新し、低コストで迅速な顧客サービスの投入が可能になりました。今回は、当該プロジェクト実施の背景、概要などをご紹介します。



## 2 《講演》通信事業システムへのアジャイル開発の適用

荒本 実(KDDI(株) プラットフォーム開発本部 クラウドサービス開発部 グループリーダー)  
川上 誠司(KDDI(株) プラットフォーム開発本部 クラウドサービス開発部 チームリーダー)

KDDIは、移動通信・固定通信の両方を併せ持つ総合通信事業者として、電気通信サービスを安全に安定して提供し続けることが求められます。このためシステム開発においては、重大事故を起こさないための「機能安全」を確立する開発プロセスを規定し、高い信頼性を確保しています。一方、変化し続ける市場環境に応じて素早くサービスを提供するために、開発のサイクルを早めていかなければならない課題があり、企業向けクラウドサービスへアジャイル手法を用い、内製で開発することにチャレンジしました。通信事業システムとしての品質を確保しつつ、素早くサービス提供するためのアジャイル開発をどのように実践していったかについて紹介します。



荒本氏



川上氏

## 3 《パネルディスカッション》プロジェクト支援活動の葛藤とやりがい

【パネリスト】河野 哲也(株)日立製作所) / 関 将俊(toRuby) /  
竹下 千晶(株)デンソークリエイト) / 水田 恵子(パナソニック(株) /  
【モデレータ】堀 明広(株)NTTデータMSE)

監査・標準化・改善推進といったプロジェクトへの支援活動に携わっている方々は、マンネリに陥っている、行き詰まっていると感じたことが一度はあるのではないのでしょうか。また、自分たちの仕事の価値が周囲に認められていないと感じたこともあるのではないのでしょうか。

例えば監査に携わる方は、周囲から「重箱の隅をつつくように粗探しされ、あまり大きな意味があるとは思えない仕事をさせられると敬遠される」例えば標準化や改善推進に携わる方は、周囲から「開発プロジェクトの実務とは遠い世界で何か検討して細かいルールを押し付けてくると敬遠される」

このように、支援活動に関わる方々は一生懸命に取り組んでいるながらも周囲からそれを認められず、自分は何にどんな貢献ができていたのか実感が湧いて来ず、やりがいが感じられなくなり、いつか機械的に作業をこなすだけになって「仕事が面白くない」と感じてしまう。そんなことはないのでしょうか。

本セッションでは、プロジェクト監査・改善推進・テスト・開発と異なるポジションのパネリストの方々に、プロジェクトへの支援活動を有効に作用させるにはどのような考え方が必要なのかを、経験談とともに紹介していただきます。



河野氏



関氏



竹下氏



水田氏



堀氏

## 4 《講演&パネルディスカッション》暗黙知を共有し生き生きとしたチームを作るパタン・ランゲージ

【パネリスト】中埜 博(同)CEST 代表社員) / 平鍋 健児(株)チェンジビジョン 代表取締役社長)  
【モデレータ】細谷 泰夫(三菱電機(株) 通信機製作所 情報技術部)

パタン・ランゲージとは、経験則のような暗黙知を形式化するための「言語」です。その中でもデザインパタンは、パタン・ランゲージの最も有名な活用例の一つです。パタン・ランゲージが有効な分野は、設計だけではなくありません。

例えば、組織の作り方・学び方・効果的な読書の仕方・失敗の再発防止・熟練者のノウハウの共有等々、様々な分野や場面でパタン・ランゲージは活用されています。

本セッションでは、これからパタン・ランゲージを活用していくための必要な基礎知識と実践事例を講演とパネルディスカッションを通じてご紹介し、皆さんの様々な活動にパタン・ランゲージを取り入れるきっかけをご提供します。



中埜氏



平鍋氏



細谷氏

# SQiP特別セッション～SQiPからの情報発信～ (9月17日(木)・18日(金))

SQiPは、「ソフトウェア品質を良くしたい」という思いを共有する人なら誰でも参加できるオープンな場です。SQiPは、そのような思いを持つ方々が集まる機会を提供するとともに様々な研究開発活動を行っています。

本シンポジウムでは、SQiP特別セッションとして4つのセッションとパネル展示を設けSQiPの活動を紹介します。

### 「ソフトウェア品質知識体系の近未来像」

- 《第1部》ソフトウェア品質知識体系の近未来図
- 《第2部》SQuBOK V3の開発プロジェクトについて
- 《第3部》テスト分析の概略

### 「SQiPのコミュニティ活動」

- 《第1部》気づきが起こる勉強会！カフェ・ソフトウェアクオリティの活用法
- 《第2部》ソフトウェア病理学NEO:  
ソフトウェア開発のアンチパターンを解きほぐす
- 《第3部》試験を通して品質を学習する会

### 「ソフトウェア品質保証部長の会からの情報発信！」

- 《第1部》『超上流からの品質保証 partⅢ』
- 《第2部》設計工程での品質施策—要求・要件定義の合意形成のために—
- 《第3部》スピード経営を実現するためのアジャイル開発、品質保証部門は何するの？
- 《第4部》品質意識を醸成するには？

### 「SQiP-West 関西ソフトウェア品質保証責任者の会からの情報発信」

- 《第1部》「人財開発」チームからの報告 ～とある組織の品質意識調査～
- 《第2部》「身の丈プロセス」の深掘り



# ソフトウェア品質シンポジウム2015 (SQiP2015)



## 参加のおすすめ



「私たちが企画しました。自信をもっておすすめします」  
ソフトウェア品質シンポジウム委員会

## ソフトウェア品質シンポジウムに参加し、次のステップを踏み出してみませんか？

本シンポジウムは発表者、講演者、展示出展者の実践的な技術、経験、ノウハウ、研究成果を発表し意見交換を行う場です。発表、講演、展示はソフトウェア品質に関連する多様な分野にわたり、その取り組み事例からご参加者が新たな知見を得たり刺激を受けたりしています。また、積極的な意見交換、仲間やコミュニティの絆を深め、悩みや課題の解決の糸口を持ち帰っていただいています。そして、これまでのシンポジウムに参加し、一步を踏み出した参加者が、次のシンポジウムの発表、講演、展示において他の参加者の次のステップのきっかけを作っています。

ソフトウェア品質シンポジウム2015委員会 委員一同

## ■プログラム (敬称略) 2015.7.10現在

会場 (東洋大学・白山キャンパス 5号館地下1階「井上円了ホール」)

10:15~10:25	【SQiPの紹介】 野中 誠 (SQiP運営委員会 委員長/東洋大学)				<b>SQIP (Software Quality Profession) とは</b> 実践的で実証的なソフトウェア品質技術・施策の研究・普及を目的として、日本科学技術連盟のもとに設置されたソフトウェア品質向上のための推進組織です。
10:25~10:40	【オープニング】 森崎 修司 (ソフトウェア品質シンポジウム委員会 委員長/名古屋大学)、ソフトウェア品質シンポジウム委員会 委員一同				
10:40~11:50	【基調講演】 「変わりつつあるシステム品質~世界で起きている開発方法論の革新~」 白坂 成功 (慶應義塾大学)				
11:50~13:00	昼食休憩 (ランチセッション: 昼食時に「ツール出展」企業: 株式会社デンソー/日本シノプシス(同)からの発表を聴くことができます。昼食は主催者が準備いたします。【事前登録制】)				
	第1会場 (6号館地下1階「6B12」)	第2会場 (6号館地下1階「6B13」)	第3会場 (6号館地下1階「6B14」)	第4会場 (6号館地下1階「6B15」)	1日目はセッションCはございません。 2日目にセッションCが第3会場「6B14」に入ります。 そのため、企画セッションD3&D4とSQiP特別セッションE3&E4は会場が移動になります。ご注意ください。
	【セッション A1】 一般発表: テスト設計・改善	【セッション B1】 一般発表: プロセス改善	【企画セッション D1】	【SQiP特別セッション E1】~SQiPからの情報発信~	
13:00~13:35	A1-1 【経験論文】 不具合と開発現場の実態に基づくテスト分析/設計手法の提案 金子 昌永 (クラリオン(株))	B1-1 【経験発表】 「SQA監査」と「確認レビュー (ISO26262対応)」の融合~SQAの更なる役立ちに向けて~ 菅沼 由美子 (パナソニック(株))	D1 【講演】 13:00~14:40 「ANAのプロセス改革~旅客サービスを支える大規模 ミッション クリティカル システムの刷新~」 講演者: 金子 肇 (全日本空輸(株))	E1 13:00~14:40 「ソフトウェア品質知識体系の近未来像」 《第1部》ソフトウェア品質知識体系の近未来図 野中 誠 (東洋大学) 《第2部》SQuBOK V3の開発プロジェクトについて 大野 晋 (ASTER (ソフトウェアテスト技術振興協会)) 《第3部》テスト分析の概略 鈴木三紀夫 (リコーITソリューションズ(株))	
13:35~14:10	A1-2 【経験発表】 製品検査における仕様書記載外の問題点抽出強化に向けたテスト観点拡充方法の検討と実践 星名 卓郎 (日立製作所)	B1-2 【経験発表】 効率的な品質改善に向けたCMMI成熟度レベル別の要因分析 柳田 礼子 (日本電気(株))			
14:10~14:40	A1-3 【経験論文】 類似プロダクトでのテスト実行履歴を用いたブラックボックステストにおけるテスト優先度付け 野口 直寛 (早稲田大学)	B1-3 【経験発表】 パートナーとの改善活動の進め方 城 多寿子 (日本電気通信システム(株))			
14:40~14:50	休 憩				
	【セッション A2】 一般発表: デバッグ・不具合分析	【セッション B2】 一般発表: 品質分析	【企画セッション D2】	【SQiP特別セッション E2】~SQiPからの情報発信~	
14:50~15:25	A2-1 【経験論文】 ネットワーク型データモデルを用いた問題点の可視化と問題分析への応用例 角口 勝隆 (日立ソリューションズ)	B2-1 【経験論文】 共通言語としての欠陥特性の提案 森 龍二 (機エクス)	D2 【講演】 14:50~16:30 「通信事業システムへのアジャイル開発の適用」 講演者: 荒本 実 (KDDI(株)) 川上 誠司 (KDDI(株))	E2 14:50~16:30 「SQiPのコミュニティ活動」 《第1部》気づきが起こる勉強会! カフェ/ソフトウェアアクトリティアの活用法 牛渡 幸恵 (ソバル(株)) / 大野 泰代 (機オープストリーム) 《第2部》ソフトウェア病理学NEO: ソフトウェア開発のアンチパターンを解きほぐす 堀 明広 (機NTTデータMSE) 《第3部》試験を通して品質を学習する会 大坪 正晴 (試験を通して品質を学習する会リーダー)	
15:25~16:00	A2-2 【経験論文】 変更の影響範囲を特定するための「標準調査プロセス」の提案 冨田 一成 (アンリツエンジニアリング(株))	B2-2 【経験論文】 ソフトウェア欠陥予測アルゴリズム~欠陥混入メカニズムのモデリング手法を利用した欠陥予測方法の提案~ 柏原 一雄 (第30年度SQiP研究会 第7分科会)			
16:00~16:30		B2-3 【経験論文】 ソフトウェア開発における品質分析・評価プロセスの改善とその効果 森川 敏寛 (富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株))			
16:30~16:40	休 憩				
16:40~18:25	<b>【SIG (Special Interest Group)】</b> ※「SIG」とは特定の興味あるテーマについて、メンバー同士が互いに知識や情報交換する場です。【事前登録制】 テーマ1: チーム活動を加速するマネジメント手法CCPMを「おりがみ」で学んでみよう! テーマ2: もう「できない」とは言わせない! ~すぐに使える「考えるための思考ツール」を体験しよう~ テーマ3: 協働体験から、この先のプロセスを考えてみよう テーマ4: 成功のなぜなぜ分析と振り返りで学びを深めよう テーマ5: OSS (オープンソースソフトウェア) 活用におけるリスクマネジメントを議論しよう ~OSSを効率よく安全に使い続けてビジネスに活かすために~ テーマ6: プロセス改善にも使える断れないほど魅力的なソリューション提案「マフィアフォー」 テーマ7: こんな教育でいいんじゃないの? ~一緒に考えてみませんか?~ テーマ8: プロジェクト成功のために「異変の予兆」にどう気づくか? テーマ9: 若手レビューアの育成には何が必要か? ~みんながやってくる工夫を共有しよう~ テーマ10: 文書品質を測る! ~開発文書の品質可視化にTRYしてみよう~ テーマ11: 困ったバグレポートを改善しませんか? ~バグレポートからのプロセス改善~ テーマ12: あなたの投稿を応援します ~来年度の投稿に向けての第一歩~ テーマ13: アジャイル開発とQAについて話し合おう テーマ14: 品質保証責任者の課題・対応策共有 ~なぜ止められなかった? あなたの周りの向上プロジェクト~				
18:25~18:35	休 憩				
18:35~20:00	【情報交換会】 [会場: 東洋大学 地下1階カフェテリア]				

	第1会場 (6号館地下1階「6B12」)	第2会場 (6号館地下1階「6B13」)	第3会場 (6号館地下1階「6B14」)	第4会場 (6号館地下1階「6B15」)	第5会場 (6号館2階「6202」)
	【セッション A3】 一般発表: テスト自動化	【セッション B3】 一般発表: マネジメント・トレーニング	【セッション C3】 招待講演	【企画セッション D3】	【SQiP特別セッション E3】~SQiPからの情報発信~
10:00~10:35	A3-1 【経験発表】 パターン化された試験シナリオの抽出・活用によるGUI試験設計の効率化 岩城 悠也 (三菱電機(株))	B3-1 【経験論文】 トヨタ開発方式の包括的利用によるソフト開発のQCD向上活動 比嘉 定彦 (機アドバンテスト)	C3-1 ★2014年度 Best Paper Future Award受賞 工数入力定着モデルの提案~時間日誌を手に入れる~ 山路 厚 (デンソーテクノ(株))	D3 【パネルディスカッション】 10:00~12:15 「プロジェクト支援活動の葛藤とやりがい」 《パネリスト》 河野 哲也 (日立製作所) 関 将俊 (toRuby) 竹下 千晶 (機デンソークリエイト) 水田 恵子 (パナソニック(株)) 《モデレーター》 堀 明広 (機NTTデータMSE)	E3 10:00~12:15 「ソフトウェア品質保証部長の会からの情報発信」 《第1部》「超上流からの品質保証 partIII」 増瀬 英雄 (機島津ビジネスシステムズ) 《第2部》設計工程での品質施策~要求・要件定義の合意形成のために~ 廣石 高 (三菱電機(株)) 《第3部》スピード経営を実現するためのアジャイル開発、品質保証部門は何をするの? 榊原 康之 (機ニコン) 《第4部》品質意識を醸成するには? 横山 美枝子 (永山コンピューターサービス(株))
10:35~11:10	A3-2 【経験発表】 システムテスト自動化プログラムにおける「操作技術」と「シナリオ」の分割 石川 達也 (機Codeer)	B3-2 【経験論文】 発注元企業における開発プロセス改善活動~スマートホン搭載アプリケーション開発における定量的開発管理の導入と定着活動の事例~ 戸崎 貴資 (機NTTドコモ)	C3-2 ★2014年度 Best Report Future Award受賞 継続的システムテストについての理解を深めるための開発とバグのメトリクスの分析 荻野 恒太郎 (楽天(株))		
11:10~11:45	A3-3 【経験論文】 Auto Test Generatorを用いたソフトウェア単体テストの提案 榎本 秀美 (機デンソー)	B3-3 【経験論文】 レビュースキルを飛躍的に向上させるトレーニングの提案~レビューアのレベル定義とレベルに合わせた効率的なトレーニング~ 藤田 延介 (機エスイーシー)	C3-3 ★2014年度 Best Presentation Award受賞 テスト自動化によるテストサイクルの短縮と高速回転を利用した、傾向分析の精度向上の仕組みについて 永松 康能 (テルモ(株))		
11:45~12:15	A3-4 【経験発表】 テスト自動化パターン言語の構築とその効果 ~共通言語による成功/失敗の知見共有へ~ 森田 誠 (reviewro)	B3-4 【経験論文】 混成チームにおけるチーム力向上のための三者ヒアリング活用事例 ~チームビルディングはアイスブレイクだけではない~ 増田 礼子 (フェリカネットワークス(株))			
12:15~13:25	昼食休憩 (ランチセッション: 昼食時に「ツール出展」企業: スパークシステムズ ジャパン(株)/機ベリサーブからの発表を聴くことができます。昼食は主催者が準備いたします。【事前登録制】)				
	【セッション A4】 一般発表: 設計書作成・レビュー	【セッション B4】 一般発表: メトリクス	【セッション C4】 招待講演	【企画セッション D4】	【SQiP特別セッション E4】~SQiPからの情報発信~
13:25~14:00	A4-1 【経験論文】 重大欠陥を早期に正すレビュー手法 3分割レビューの提案 高橋 信弘 (ソバル(株))	B4-1 【経験発表】 何をもちて品質目標値を変えるのか? CKメトリクスでしよう! 小島 義也 (エソソアヴァシス(株))	C4-1 ★2014年度 Best Report Future Award受賞 D-Case適用拡大に向けて~アジャイル開発への適用事例~ 森 素子 (三菱電機(株))	D4 【講演&パネルディスカッション】 13:25~15:05 「暗黙知を共有し生き生きとしたチームを作る パターン・ランゲージ」 中埜 博 (同)CEST) 平鍋 健児 (機エンジビジョン) 《モデレーター》 細谷 泰夫 (三菱電機(株))	E4 13:25~14:25 「SQiP-West 関西ソフトウェア品質保証責任者の会からの情報発信」 《第1部》「人材開発」チームからの報告 ~とある組織の品質意識調査~ 《第2部》「身の丈プロセス」の深掘り
14:00~14:35	A4-2 【経験論文】 ドキュメント作成者が自ら曖昧な箇所を検知できるW検法の提案 宮本 陽子 (機メタテクノ)	B4-2 【経験論文】 プロダクトメトリクスと品質の関係分析 山崎 健司 (NECソリューションイノベータ(株))	C4-2 ★2014年度 Best Paper Effective Award受賞 車載システム製品へのコンカレント開発の適用~コンカレントフィードバック開発方法への発展~ 林 健吾 (機デンソー)		
14:35~15:05	A4-3 【経験論文】 ファンクションポイント法を応用した外部仕様書の品質評価 成田 有希 (機NTTデータ)	B4-3 【経験論文】 Statement Deletion Operatorを用いたミューテーション解析ツールの作成と実用のための考察 野中 亮 (機マトリクス(株))			
15:05~15:25	休 憩				
15:25~16:35	【特別講演】 「JR東海の鉄道事業運営を支える情報システムの取り組み」 石川 勝隆 (東海旅客鉄道(株))				
16:35~17:00	【表彰】 大杉 直樹 (ソフトウェア品質シンポジウム論文委員長/機NTTデータ)				
17:00~17:30	【クロージング】 ソフトウェア品質シンポジウム委員会 委員一同				

※: プログラムは都合により変更になる場合がございます。 ※: 一般発表の間には5分間の入替時間がございます。

## 後援・協賛(予定)

後援: 独立行政法人 情報処理推進機構 (順不同)

協賛: NPO法人 スキル標準ユーザー協会、一般社団法人 情報サービス産業協会、一般財団法人 日本情報経済社会推進協会、一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会、一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会、一般社団法人 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会、日本ファンクションポイントユーザ会、高品質ソフトウェア技術交流会、NPO法人 組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会、アジャイルプロセス協議会、ソフトウェア技術者協会、一般社団法人 組込みシステム技術協会、派生開発推進協議会、一般社団法人 日本品質管理学会 ソフトウェア部会、日本信頼性学会、全国ソフトウェア協同組合連合会、日本SPIコンソーシアム、一般社団法人プロジェクトマネジメント学会、NPO法人ソフトウェアテスト技術振興協会

## ソフトウェア品質シンポジウム2015委員会

●委員長: 森崎 修司 (名古屋大学) (敬称略、順不同)

●副委員長: 大杉 直樹 (株NTTデータ) 堀 明広 (株NTTデータMSE)

●委員: 青木 利晃 (北陸先端科学技術大学院大学) 足立 久美 (株デンソー) 今井 敦 (テクマトリックス株)  
 鬼頭 素子 (日本電気株) 小井土 亨 (株OSK) 河野 哲也 (株日立製作所)  
 佐々木 方規 (株ベリサーブ) 佐藤 光紀 (株日本オープンシステム) 鈴木 準一 (富士通株)  
 寺脇 由紀 (法政大学) 中島 碧莉 (株インテック) 中田 雅弘 (株日立製作所)  
 野中 誠 (東洋大学) 服部 彰宏 (富士ゼロックス株) 服部 京子 (日本アイ・ピー・エム株)  
 細谷 泰夫 (三菱電機株) 森 俊樹 (株東芝) 脇谷 直子 (広島修道大学)

## 参加要領

●参加費(全て税込み, 1名分) 《早割期間は8月18日(火)まで》

一般	41,040円 《早割》41,040円 → 32,840円
日科技連賛助会員 (後援・協賛団体会員)	38,880円 《早割》38,880円 → 31,110円
団体割引	(1回で3名以上お申込の場合) 30,240円(※早割適用外)
一般発表者	(発表者本人のみ) 5,400円
共同執筆者	(発表1件につきお一人) 19,440円
学生	5,400円
2015年度ソフトウェア品質管理研究会 研究員	無料
併設チュートリアル&基調講演	一般・会員ともに8,640円
併設チュートリアル	一般・会員ともに5,400円

●内容に関するお問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟  
 教育推進部 第二課  
 ソフトウェア品質シンポジウム2015担当  
 TEL: 03-5378-9813  
 FAX: 03-5378-9842  
 E-mail: sqip-sympo@juse.or.jp

●受付に関するお問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟  
 企画広報室 セミナー受付  
 TEL: 03-5990-5849  
 FAX: 03-3344-3022  
 E-mail: regist@juse.or.jp

## 会場ご案内

東洋大学 白山キャンパス  
 〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

### (アクセス)

- 営地下鉄三田線「千石」駅  
A1出口から「正門・西門」徒歩8分
- 都営地下鉄三田線「白山」駅  
A3出口から「正門・南門」徒歩5分  
A1出口から「西門」徒歩5分
- 東京メトロ南北線「本駒込」駅  
1番出口から「正門・南門」徒歩5分
- 東京メトロ千代田線「千駄木」駅  
1番出口から「正門・南門」徒歩15分
- JR山手線「巣鴨」駅  
南口から「正門・西門」徒歩20分  
都営バス10分(「浅草寺町」行「東洋大学前」下車)



参加申込は、以下の申込フォームからお願いします。

<https://www.juse.jp/sqip/symposium/form/step1/>

- (ご注意) ※お申込後、ご指定のメールアドレスに「開催通知」を送信いたします。  
 ※「参加券」「請求書」は郵送いたします。参加費は請求書発行後、2カ月以内に請求書に記載されている指定の口座へお振込ください。  
 ※参加費は、1日のみのご参加でも全額申し受けます。また、当日欠席されてもご返金いたしかねますのでご了承ください。  
 ※参加者以外、資料の配付はいたしません。また、資料のみの頒布はいたしませんので、ご了承ください。  
 ※「併設チュートリアル」「SIG」「ランチセッション」に参加ご希望の方は、申込時に必ず希望セッションをお選びください。